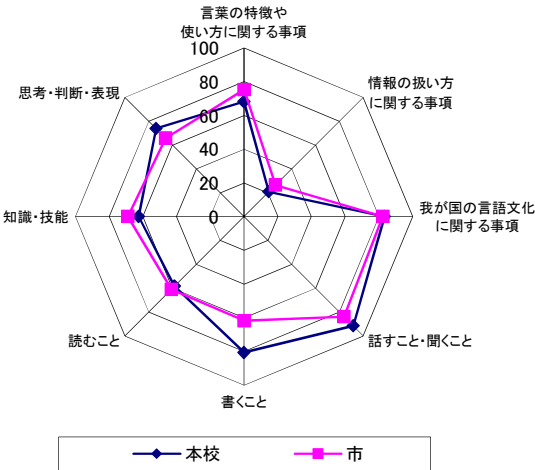


宇都宮市立篠井小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方にに関する事項	68.2	75.3	77.1
	情報の扱い方にに関する事項	20.8	26.5	27.8
	我が国の言語文化に関する事項	83.3	82.4	81.0
	話すこと・聞くこと	91.7	83.9	84.2
	書くこと	80.6	61.7	64.5
	読むこと	58.3	60.9	61.0
観点別	知識・技能	62.5	68.8	70.3
	思考・判断・表現	73.9	65.8	67.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

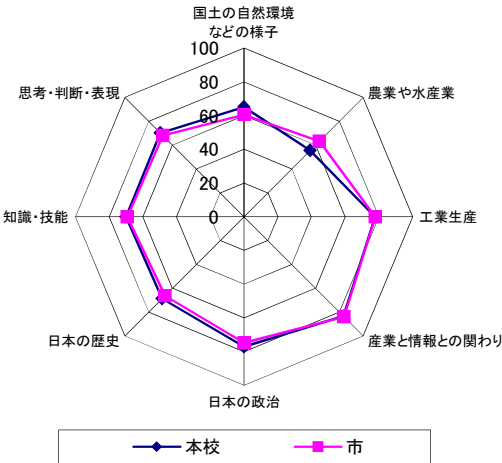
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や 使い方にに関する事項	●市の平均正答率と比べ7.1ポイント下回った。 ●漢字の読み書きに関しては、どの設問でも市の平均正答率を下回っている。 ○言葉の学習では、敬語の正しい使い方についての設問の正答率が市の平均を6.3ポイント上回っている。 ○文と文との接続の関係を理解して、二つの文に書き直す設問の正答率が75.0%と市の平均正答率より6.3ポイント上回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字の学習については、学年の漢字を繰り返し練習し確実に習得させるとともに、下の学年の漢字についても、自主学習などを利用して復習させていく。 ・熟語の成り立ちや、文脈に沿った適切な漢字の使い方など、言葉の学習時間を増やしていく。
情報の扱い方 に関する事項	●市の平均正答率と比べ5.7ポイント下回った。 ●情報と情報の関係について理解し、文章の情報を整理する問題では、8.3%の正答率で市の平均正答率を8.9ポイント下回った。	・文章の中から必要な情報を正しく選択するために、読解力を向上させる。そのために、学年の発達段階ごとに、身に付けるべき「読むこと」の領域のねらいをはっきりさせて指導する。
我が国の言語文化 に関する事項	○市の平均正答率と比べ0.9ポイント上回った。 ○和語、漢語、外来語について理解する問題では、市の平均正答率を上回った。	・授業の中で、言語文化に対する関心を高めるような話題を提供したり、自主学習で日本語や日本文化についての見識を高める内容を奨励したりする。
話すこと・聞くこと	○市の平均正答率と比べ7.8ポイント上回った。 ○自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉える記述式の問題では、正答率が91.7%で市の平均正答率を12.8ポイント上回っている。	・今後も、学年の発達段階に応じた話合いの学習形態を取り入れ、主体的対話的で深い学びのある授業を展開していく。学び合いを効果的に取り入れ、相手の考えを自分の考えと比べながら聞いたり、根拠を明らかにして自分の意見を伝える体験を積んでいく。
書くこと	○市の平均正答率と比べ18.9ポイント上回った。 ○予想される反論とそれに対する意見を書く問題では、市の平均正答率と比べ39.9ポイント上回っている。	・学年ごとの「書くこと」の領域の内容を丁寧に指導していく。 ・読書指導の充実を図り、読解力を向上させることで、問題に向き合える力を付けさせる。また、語彙を増やすことで表現力を高めるとともに、個別指導にも力を入れていく。
読むこと	●市の平均正答率と比べ2.6ポイント下回った。 ●物語の内容を読み取る問題では、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げる問題で市の平均正答率を22.5ポイント下回っている。 ○説明文の内容を読み取る問題では、叙述を基に文章の内容を捉える問題で市の平均正答率を24.1ポイント上回っている。	・学年ごとの「読むこと」の領域の内容を丁寧に指導していく。 ・文章を読む時に、時間や場所、様子を表すキーワードを見つけながら読み進めていくよう指導していく。 ・読書活動を推進していくことで、読むことへの関心を高める。さらに、読書の幅を広げるようにいろいろな分野の本を紹介していく。 ・読書ノートを作り、内容を要約したり、作者の意図をまとめたりする経験を積ませる。

宇都宮市立篠井小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	65.0	60.5	65.8
	農業や水産業	55.6	63.3	66.0
	工業生産	77.8	77.9	75.7
	産業と情報との関わり	83.3	83.8	76.6
	日本の政治	77.1	74.9	74.1
	日本の歴史	68.8	66.3	68.3
観点別	知識・技能	69.9	69.3	71.4
	思考・判断・表現	70.2	68.1	66.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

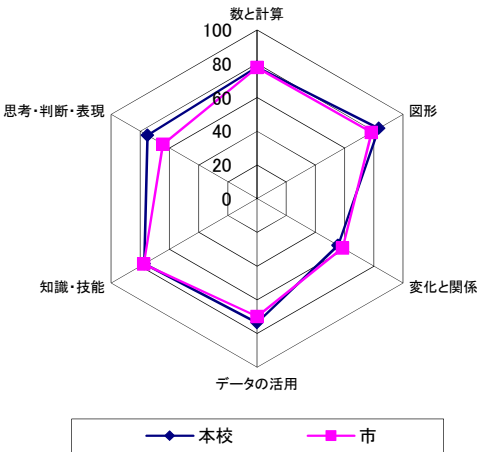
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境 などの様子	○市の平均正答率と比べ4.5ポイント上回った。 ○「日本周辺の海洋名」や「国土の構成」についての問題は正答率が75.0%、「森林を守るための間伐」についての問題は、正答率が91.7%であり、市の正答率を上回った。 ●「公害と答える問題」は市の正答率を9.4ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・基礎的な選択問題の正答率が高く、記述問題においても得点できている児童が多い。日々の基礎的な学習の積み重ねで捉えられる。今後も基礎的な学習を継続するとともに、児童が主体的に応用問題に取り組む機会を取り入れる。
農業や水産業	●市の平均正答率と比べ7.7ポイント下回った。 ○「米の品質を高める工夫」についての問題は正答率が83.3%と高い水準であった。 ●「日本の食料自給率」についての問題は、正答率16.7%と市の正答率を19.6ポイント下回った。	・食料自給率については、言葉の意味を理解することに加え、主な食料(米、小麦、果実、肉類、野菜類、魚介類など)ごとに、気候や災害などの影響や国産、外国産などの観点から実際の生活と結びつけて考える活動を授業に取り入れる。また、折れ線グラフや棒グラフなど資料の読み取り方についても丁寧に指導していく。
工業生産	○市の平均正答率と比べ同程度であった。 ○「自動車の製造工程」についての問題では、正答率が100%で、市の正答率を9.8ポイント上回った。 ○「日本の主な輸出入品」についての問題では、市の正答率を10.2ポイント上回った。 ●「自動車部品の再利用」についての問題では、正答率が66.7%で市の正答率86.9%を20.2ポイント下回った。	・引き続き、動画や写真などの資料を使って、作業工程を流れて理解できるようにする。 ・「再利用」「限られた資源」など、SDGsを意識し、児童の目に見える形で提示していく。
産業と情報との関わり	○市の平均正答率と比べ同程度であった。 ○「情報発信・受信の注意点」についての問題は、正答率91.7%と高い水準であった。 ○「産業における情報活用の現状」についての問題は、正答率75.0%と市の正答率を0.2ポイント上回った。	・写真や映像資料を活用したり、関係を表や図でまとめたりし、生活における様々なメディアの特徴を捉えられるようにする。また、児童にとって身近なテーマや社会問題となっていることを例に挙げ、児童が自分事として捉え、主体的に課題に取り組むことができるようにする。
日本の政治	○市の平均正答率と比べ2.2ポイント上回った。 ○「議会政治について」資料をもとにした記述問題では正答率66.7%と、市の正答率53.0%を13.7ポイント上回った。 ●「日本国憲法の平和主義の基本的な考え方」についての問題では、正答率83.3%であったが、市の正答率を10.3ポイント下回った。	・正しい条文を選択する問題形式であり、文章の読解が難しかったと思われる。それぞれの領域で必要不可欠なキーワードを改めて重点的におさえる必要がある。 ・他の領域の傾向からもわかるように、児童にとって身近に感じさせることが内容理解の深まりに繋がる。法令制定の背景を考えたり、現代の社会と比べたりする活動を授業に取り入れる。
日本の歴史	○市の平均正答率と比べ2.5ポイント上回った。 ○「鎌倉幕府の政治」についての問題では正答率91.7%と市の正答率72.4%を19.3ポイント上回った。 ○大問9については、全問市の正答率を上回った。 ●同世代の児童がまとめた資料を読み取る問題では、市の正答率を下回った。	・歴史上の出来事を流れて捉えられるよう、まとめ活動などを取り入れるとともに、児童同士で見合う活動も取り入れ、相手の考えを読み取る力を伸ばしていく。また、それぞれの出来事について焦点化して考えたり、同時期に起こった出来事の因果関係や共通点・相違点などについても捉えられるようにし、内容の定着を図っていく。

宇都宮市立篠井小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	78.0	77.7	78.6
	図形	83.3	78.4	74.4
	変化と関係	55.6	58.7	53.0
	データの活用	73.6	69.9	57.2
観点別	知識・技能	77.2	77.5	74.0
	思考・判断・表現	75.0	64.5	58.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

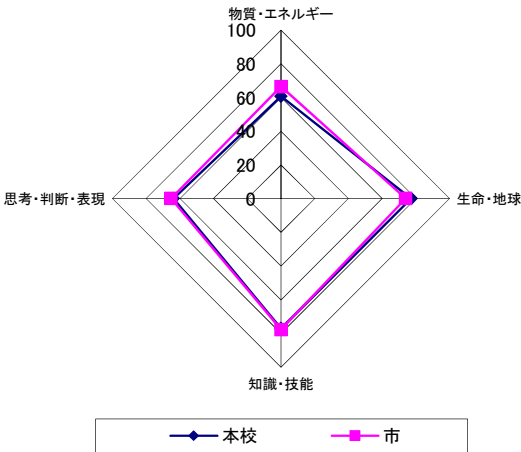
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○市の平均正答率と比べ0.3ポイント上回った。 ○小数第一位×小数第一位の計算の正答率は、市の正答率を11.9ポイント上回っている。 ●比較量が基準量の何倍になるかを求める式の正答率は、市の正答率を12.0ポイント下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・基礎的な計算能力を定着させるために、引き続き全校体制で復習の取組を継続していく。 ・比較量・基準量に苦手意識をもつ児童が多いため、今後も計算練習を継続するとともに、問題を図に表したり、図から式を立てたりできるよう指導する。
図形	○市の平均正答率と比べ4.9ポイント上回った。 ○ひし形の面積を求める式を答える問題の正答率は91.7%で、市の正答率を15.9ポイント上回っている。 ●底面積と高さから角柱の体積を求める問題では、市の正答率を6.3ポイント下回っている。	・体積を求める公式の活用を図るために、解き方の順番を明確に示すなどして丁寧に指導する。また、なぜその公式になるのか、言葉や図を使い説明させるようにする。
変化と関係	●市の平均正答率と比べやや下回った。 ○表から面積と人数の割合を求め、どのプールが混んでいるかを考察する問題の正答率は66.7%で、市の正答率を11.8ポイント上回っている。 ●速さの単位の関係を理解し、分速を秒速や時速に直す問題の正答率は、33.3%で市の正答率を21ポイント下回っている。	・時速、分速、秒速の相互変換ができるように、60倍、3600倍の関係、60分の1、3600分の1の関係が成り立っている場合を数直線などから正しく理解できるように指導する。 ・百分率や割合について、身の回りにある題材をもとにした活用問題に取り組む。
データの活用	○市の平均正答率と比べ3.7ポイント上回った。 ○ヒストグラムの特徴をもとに、平均値付近の記録が1番多いわけではないことを説明する問題の正答率は75%で、市の正答率を30.4ポイント上回っている。 ●平均から全体の量を推測する問題の正答率は41.7%で、市の正答率を8.8ポイント下回っている。	・代表値(平均値、中央値、最頻値)の意味と求め方を正しく理解させ、様々な視点からデータを読み取れるようにする。 ・平均・合計・個数を求める公式を再度確認し、理解するまで丁寧に指導する。 ・引き続き、自分の考えや友達の考えを説明する授業展開を単元の中に位置づける。

宇都宮市立篠井小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	60.7	66.5	66.3
	生命・地球	77.2	74.0	72.6
観点別	知識・技能	77.1	77.6	78.2
	思考・判断・表現	63.7	65.3	63.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	●市の平均正答率と比べ5.8ポイント下回った。 ○水溶液を用いた実験の不適切な方法を選択する問題の正答率は、市の正答率よりも10.4ポイント上回り100%であった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・基本的事項の定着に向けて、繰り返し練習を行っていくとともに、文章を読み比べたり、図を見比べて答えを導き出したりするような問題にも取り組ませ発展的な課題も充実させていく。 ・基本的な用語などは確実に覚えていけるよう、継続的な指導を徹底する。
生命・地球	○市の平均正答率と比べ3.2ポイント上回った。 ●太陽と月の位置関係から、月の形の違いを指摘する問題の正答率は市の正答率よりも22.4ポイント下回っていた。	・壮大で捉えにくいものは視聴覚教材を有効活用するとともに、実生活の中で見られる事象を提示したり、身近なものに置き換えたりして理解の定着を図る。 ・基本的な用語などは確実に覚えていけるよう、継続的な指導を徹底する。

宇都宮市立篠井小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
読むことを通し、だれもが「できた！」「わかった！」「深まった！」を実感できる授業を目指して～主体的・対話的で深い学びのある国語の授業の実践～	・児童の主体的な学びを引きおこす課題設定の工夫 ・対話的な学び合いを取り入れた授業の展開 ・考えを広げ深められる言語活動の設定	・「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」という設問に、肯定的回答をした児童の割合は、学年によって差が見られたが、100%から66.7%であった。8割を超える学年が多い。 ・「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」という設問に、肯定的回答をした児童の割合は100%から66.7%であった。6年生は100%で、市の割合と比べ大きく上回っている。 ・「ものごとをいろいろな視点や立場から考えている」「学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる」という設問(3～6年)に、肯定的回答をした児童の割合は、ほとんどの学年で80%以上である。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

○苦手とする領域を意識した指導の充実…課題が見られた領域については、問題の書き直しを行い、全員で正答を確かめる場をつくる。(国語では、書く・読む領域、算数では、図形・変化と関係において特に正答率が低い。)

○思考力・判断力・表現力を高める指導の工夫…授業の中で、友達と考えを伝え合ったり、説明し合ったりする機会をつくり、自分の考えを言葉にする機会を多く設定する。

今年度、6年生は、4月の全国学力・学習状況調査と12月の学習内容定着度調査を比べると、市の正答率を上回る領域が多くなった。また、3教科において思考・判断・表現力が市の正答率を上回る結果となった。全学年でも、話し合いに自分から進んで参加しているという設問に肯定的回答をした児童の割合が高いことから、対話的な学習に取り組んできた成果が出てきたと考える。次年度も継続して、主体的・対話的で深い学びにつながるような指導を充実させていきたい。